

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■141■

私は川を眺めるのが好きだ。ひとときとして同じことなく流れる水面を見つめていると、時間を忘れてしまう。群馬でも自転車で出かけては、風光明媚な景色を楽しんでいる。

かつての利根川は暴れ川。見て楽しむようなものではなかった。宿敵ともいえる利根川の治水と用水に欠かせないのが、広瀬川と桃ノ木川だ。とうとうと流れる広瀬川と対照的に、のどかな桃ノ木川。実は、この二つは人工の川だという。驚きモノノキ。

二つの兄弟川は、広桃

用水がつなくまちと農村

水を使い倒す仕掛け

かつての利根川は暴れ川。見て楽しむようなものではなかった。宿敵ともいえる利根川の治水と用水に欠かせないのが、広瀬川と桃ノ木川だ。とうとうと流れる広瀬川と対照的に、のどかな桃ノ木川。実は、この二つは人工の川だという。驚きモノノキ。

先日、友人であり広桃用水を管理する土地改良区の小池さんの案内で、取水口などを見学する機

会に恵まれた。そこは、

長い歴史で培った知見を生かし、水を制御しつつ使い倒す仕掛けの宝庫だった。

第一取水口は佐久発電

用水と呼ばれる農業用水の中核だ。その歴史は古く、室町時代にさかのぼる。利根川が大氾濫で変流したその跡に水路を造

所の放水路のすぐ横にある。つまり、既に一度発電に使われた水から広瀬川が始まるのだ。第二取水口は、利根川の坂東橋

た。広瀬川の主線は大正用水と桃ノ木川に分岐して前橋の街中へと流れ込むが、第二取水口で取った水の一部は、利根川の下を通って天狗岩用水として高崎方面の農地も潤す。川が街中に至る前に発電に使われること6度。前橋市、伊勢崎市、

広桃用水や支流の馬場川などは、まちの隅々まで引かれ、生活用水のほか、製糸など工業にも使われてきた。また、水の流れは、まちの風景にも潤いを与える。農業従事者の不断の尽力がまちの風景になっているのだ。まちと農村は一体として栄えるのだと思う。

東詰にある。内部にはごうごうと水が流れ込み、川のエネルギーのすさまじさを肌で感じた。これらは、1947年のカスリーン台風で全壊した旧取水口の後継だが、発想の斬新さと、4年という短期間で造り上げた関係者の実行力に感銘を受け

玉村町の農地を潤し、使い倒された水は、再び利根川と合流する。

かつて利根川を渡る前に馬を休ませたことに由来する厩橋。橋にほど近いすし屋の窓から、いまは広瀬川となった水面を眺めながらこんな講釈を垂れるのが至福のひとつだ。

先日、友人であり広桃用水を管理する土地改良区の小池さんの案内で、取水口などを見学する機

宮 将史(みや・まさふみ) 1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長などを



を経て24年7月から現職